

平成20年度

# 研究だより

南部小学校

H20.10.15

No. 4

<兼子>

第4回授業研究会（9月30日）ご苦労様でした。

みなみ・算数科・「計算はかせに変身！」2・3年たしざんをしよう、5年小数のわり算

長岡悟司先生・高梨由紀子先生の授業から学ぶ

## <成果>

### 【仮説1について】

(2・3年)

- ・ウルトラ博士など、子どもの興味を引く手立てを取ってくださっていた。
- ・マス目のすごろくは、とてもよい支援になった。サイコロに工夫があつて、ブロック図になっていた。
- ・学習活動が、子どもの集中力に合わせて次々と変わるようにしている点が良い。教師側が言葉を子どもに合うようにしているので、子どもが引きつけられるのではないかと。

(5年)

- ・半具体物のテープを使って、ていねいに説明していた。子どもがイメージできるように道具を工夫したことが意欲につながったのではないだろうか。

### 【仮説2について】

(2・3年)

- ・双六で2人に順番が回っていくたびにルールを理解していたので、学び合いが機能していたのではないだろうか。
- ・ゲームを取り入れての学習は、関わりあつて学び合うためには良い（楽しい）手だてではないだろうか。1対1の個別指導ではできない活動のよさとも言える。

(5年)

- ・先生とのかかわりの中で、目と目をつないで指示を聞いていた。テープ図がたくさんある思考、つぶやきを助けていたのではないだろうか。

## <課題>

- ・問題文を掲示し、耳だけでなく視覚でも捉えるなど、ねらいをはっきりと持つ必要があるのではないかと。
- ・特別支援学級であるということ、また個の実態が違うということから、ねらいをそれぞれに立て、その中で2人の活動を考える難しさを学ばせていただいた。
- ・本時ではどのような姿が目標なのかを、指導者がしっかりとイメージしておく必要があるのではないだろうか。
- ・1対1（5年）だけでなく、3分くらいの学級内交流も考えていきたいものである。
- ・学習環境としてついたては必要か。区切らなくてもよかったのではないだろうか。

